



**Warabi
City**

建築職

保健師

土木職

あなたの可能性が
まちの未来を拓く

蕨市職員は生涯をかけるに値する仕事です



人口減少・少子高齢社会のなかで、地方自治体において、「選ばれる」まちづくりを進めていくことが、地域の持続可能性にとって大きな鍵となっています。

蕨市は、日本一コンパクトな市域に、宿場町や機織りのまちとして栄えた歴史や文化の薫りが溶け込み、住民参加の豊かなコミュニティが息づくとともに、都市としての高い利便性を併せ持つまちです。蕨市では、その特長を最大の強みとしながら、市の最上位計画「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンⅡに基づき、「安心・にぎわい・未来 みんなで創る みんなにあたたかい みんなのまち蕨」の実現に向けて、市民の皆さんとともに、住みやすさ日本一のまちを目指そうと、市長を先頭に職員が一丸となって、日々、蕨のまちづくりを前進させています。

蕨市では、この間、人口の増加傾向が続き、子育て世帯の80%が「子育てしやすい」と答えるなど、「選ばれる」まちとして発展を続けていますが、令和5年秋に市民サービスの拠点である新庁舎が開庁し、蕨の「顔」である蕨駅西口再開発事業が来年竣工を予定するなど、今、蕨はまさに飛躍の時を迎えています。蕨市職員としての仕事は、市民の暮らしを支えるやりがいや地域とともに成長できる自治体職員としての醍醐味はどこにも負けないと自負しています。私たちは、この夢のある事業に共に携わっていく仲間として、市民の笑顔を力に換え、困難にも挑戦できる、やる気あふれる皆さんをお待ちしています。

蕨市長 頼 高 英 雄

蕨市が求める人材とは 「蕨市のため、市民のために自ら考え、 持てる知恵と力を発揮できる職員」

地方自治を取り巻く環境が大きく転換する中、市民一人ひとりが、幸せに暮らすことができる豊かな地域を市民と協働して創造していくため、市民のためにまちのために、知恵と力を発揮し、温かい心で献身的に尽くす職員が求められています。

やる気と明るさ

明るく豊かな人間性を持ち、市民のために常に問題意識を持って新しい課題や困難な課題に果敢に自らチャレンジし、とことん汗を流せる人

市民とともに

市民と協働して、優れた「地域力」を発揮したまちづくりに取り組むため、“わらび”を愛し、市民の立場になって感じ、ともに考え、ともに行動できる人

経営感覚

市の将来を見据え、都市を経営するという視点に立ちながら、高いコスト意識を有し、限られた財源を生かすため創意工夫を発揮して、効率的かつ効果的な仕事のできる人

所属と現在の業務

私は、都市整備部まちづくり課に勤務しています。主な担当は、蕨駅西口の再開発事業を円滑に進めるため、再開発組合（地権者主体の民間組織）を支援・指導・監督することです。

仕事のやりがいと志望者へ一言

私が担当する再開発事業に係る業務は、建設現場の施工状況の確認はもちろんですが、埼玉県や警察、交通事業者、地元商店会といった関係団体との打合わせや協議、交渉等についても大変重要となってきます。その過程においては、皆さんが「より良い蕨にしたい」という共通した思いを抱いており、それぞれの立場から様々なご意見を頂戴しますが、時として調整が難航することもあります。その中から妥協点を見だし、根気強く着実に事業を前進させていく作業は、大変ではありますが、非常にやりがいを感じます。このように「まちづくり」は一朝一夕には出来ませんが、より良い蕨の将来に向けて、皆様と一緒に考えながら、共に働ける日を楽しみにしています。



先輩職員の声



技術職(建築) 平成28年度入庁

所属と現在の業務

私は、蕨市保健センターに勤務しています。主に母子保健の担当として、乳幼児健診や幼児教室等の相談業務を行っています。

仕事のやりがいと志望者へ一言

私は、乳幼児健診や赤ちゃん訪問、幼児教室などの事業を通じて、子どもの発育・発達についてのご両親の心配事や悩み事等を伺い、相談者の気持ちに寄り添いながら、仕事を通じて培った経験や専門的な知識を基に様々なアドバイスを行っています。私のアドバイスを受けて、相談者が前向きに育児に取り組めるようになり、私たち保健師を信じて頼ってきてくれた方から「気持ちが楽になった。相談してよかった。」との言葉をいただいた際には、大きな喜びとやりがいを感じました。保健師という職種は専門性が高く、多方面に関する知識が必要となりますが、地域の方々と密に関わる楽しさが魅力の一つだと思います。皆さんと一緒に働くことを心待ちにしています。



保健師

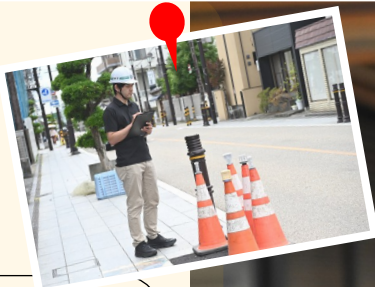
令和2年度入庁

所属と現在の業務

私は、都市整備部道路公園課に勤務しています。主に、道路の維持管理(道路舗装や橋梁の整備、照明灯・標識の管理等)や工事の設計等を担当しています。

仕事のやりがいと志望者へ一言

私は、市民の方々が利用する道路や橋梁を安全に通行することができるよう維持管理しています。道路や橋梁は、年数を重ねるごとに、老朽化していくため、一定の期間が経過した場合、整備が必要となります。整備の要否を確認するため、数年に一度、大規模な調査を実施し、緊急性が高い箇所から、順番に整備作業に移行します。整備作業が後ろ倒しになる箇所については、関係する市民の方にはご不便をおかけする形になり、時には厳しいお言葉をいただくこともあります。整備が完了した際に「ありがとう」と感謝の言葉をいただいた時には、この仕事をしていて良かったと達成感を感じます。蕨市民の暮らしを守る縁の下の力持ちとして、とてもやりがいのある仕事だと思います。



技術職(土木)

令和5年度入庁



わらび の じまん

蕨市は、古くは中山道の宿場町、機織物のまちとして栄え、戦後は首都圏の住宅都市として発展してきました。

都心にほど近いまちでありながら、住民の間から全国に先駆けて「成年式」が生まれた歴史を持ち、「宿場まつり」をはじめ、住民参加型のイベントが盛んであるなど、人と人との触れ合いや郷土愛、コミュニティの親密さが自慢のまちです。

ここでは、まちは小さくても、住む人の心は大きく温かい、蕨市の魅力の一部をご紹介します。このまちの歴史をつなぎ、未来を拓いていくのは、あなたの挑戦する気持ちと無限の可能性です。

中山道の 宿場町



蕨は古くから、江戸と京都を結ぶ中山道の宿場町として栄え、にぎわいを見せていました。中山道では地域住民と市の協力の下、現在も当時を偲ばせる街並みが整備されています。また、毎年11月3日にはこうしたまちの歴史と誇りを語り継ごうと「中仙道武州蕨宿場まつり」が開かれ、市内外から集まった多くの人でにぎわいます。

機織りの まち蕨



江戸末期から戦前まで蕨は全国でも有名な綿織物業が盛んなまちでした。現在では当時生産されていた双子織を後世に語り継ぐため、地域資源として位置付け、まちぐるみで蕨ブランドの創出に取り組んでいます。毎年8月には、織物業の発展を願うお参りや蕨駅前通りでは「わらび機まつり」が開かれ、多くの七夕飾りが並ぶ盛大な催しとなっています。

成人式 発祥の地



成人式が蕨で始まったことをご存知でしょうか。終戦直後の混乱と虚脱感が大きかった昭和21年、当時の蕨町青年団が「成年式」を開催し、次代を担う新成人を招いて激励し、その前途を祝しました。昭和23年7月、国民の祝日として「成人の日」が制定されましたが、当時の青年たちの思いを今に繋ごうと、蕨では今でも「成年式」として開催しています。

日本一 小さな市



蕨市は面積5.11平方キロメートル。富士五湖の1つ本栖湖とほぼ同じ面積に約7万7千人が暮らす、日本で最も小さな市で、人口密度も日本一です。その特性を活かして全国に先駆けてコミュニティのまちづくりが進められた蕨市は、住民同士の交流が深く、様々な地域活動が盛んです。こうした市民の力と行政が一体となり、蕨のまちづくりは進められています。

発行：蕨市職員試験委員会

問合せ：埼玉県蕨市総務部人事課

(蕨市中央5-14-15・電話 048-433-7746)